

ユーザーからみた

NTTデータへの期待

●第一生命保険相互会社

NTT データはITパートナーとして、 欠くことができない存在

1902年（明治35年）の創業以来、100年の歴史を誇る第一生命保険相互会社。NTTデータとは、同社が発足した1988年から緊密な関係を築きあげている。第一生命のITパートナーとして、団体信用保険システムの開発から、直近の全社電話網のフルIP化までを支援し続けてきたNTTデータの実績と、第一生命からみたNTTデータへの今後の期待を紹介する。

1988年の発足時より、 第一生命のITパートナーに

第一生命保険相互会社（以下、第一生命）は、相互扶助機能という生命保険事業を具現化していくために、日本最初の相互会社組織の生命保険会社として1902年（明治35年）に設立された。創立以来、100年を超える歴史のなかで、一貫して「ご契約者第一主義」の実現を目指し、「生涯設計」に基づく顧客の一生涯のパートナーであることを追求し続けている。NTTデータと第一生命のリレーションは非常に緊密であり、第一生命のITパートナーとし

.....企業プロフィール.....

第一生命保険相互会社

本社所在地：東京都千代田区有楽町1-13-1

創立：1902年（明治35年）9月

社長：斎藤 勝利

事業概要：個人保険、個人年金保険、団体保険、団体年金保険などの各種保険業務。「ご契約者第一主義」「生涯のパートナー」の経営理念のもと「社会からの信頼確保」「最大のお客様満足の創造」「職員/会社の活性化」を経営の柱に事業を展開している。2010年度（平成22年度）前半をめどに現在の相互会社から株式会社に転換する方針を打ち出している。

<http://www.dai-ichi-life.co.jp>

て、NTTデータは重要な存在だ。

1985年4月から2年間、NTTのINS実験の専任担当者としてテレビ会議、VOD（Video On Demand）、デジタルFAX／デジタル電話など、当時の最先端のシステムを生命保険会社の営業にどのように活用できるかを検討した経験を持つ、第一生命保険の武山芳夫執行役員・IT企画部長は、次のように語る。

「NTTデータとは、発足当初からのお付き合いです。NTTデータが設立された1988年、団体信用保険システムの開発を依頼したのが最初です。このシステムは比較的小さな規模のものでしたが、きっかけは、NTTデータのシステム開発の標準化に対するしっかりとした考え方にありました。当時のシステム部長がセミナーを聴講し、NTTデータの開発標準の考え方を高く評価したのがきっかけでした。団体信用保険システムの開発実績を踏まえ、翌年の1989年にはもう少し規模の大きい年金数理システムの開発を依頼し、さらに1990年には企業年金など法人向け保険システムの方向性を決めプロジェクトにも参画していただ



第一生命保険相互会社
執行役員 IT企画部長
武山 芳夫氏

きました。NTTデータは、開発パートナーとして、団体保険や企業年金など第一生命の事業の根幹をなす法人向け保険システムの開発実績を積んできています。同社の非常に手堅い着実な開発実績は、実務担当者からも高く評価されています。」

WISEネットワークのインテグ レータにNTTデータを選定

第一生命は創立100周年を迎えた2002年から、拠点系オンラインシステムの再構築を行う「次世代システム化計画（WISE；Win of our IT Strategy and Efficient system計画）」をスタートさせた。その狙

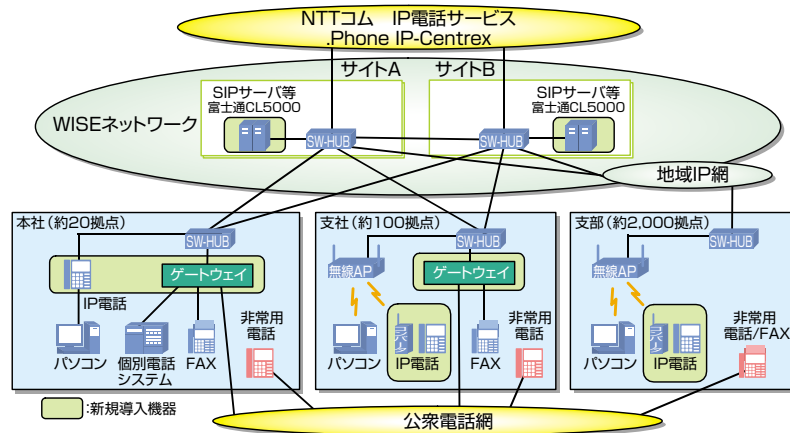


図1 第一生命保険相互会社のIP電話システムの全体構成

いは、全国各地に散在するサーバを自社データセンターに集約・一元管理することによるTCO削減もさることながら、大きな目的は情報保護のためのセキュリティ強化と、現場での情報活用の推進にあった。

WISE計画は、それまでの支社、支部・営業部ごとのクライアント／サーバ型システムから、データセンターを核としたWeb型システムへと刷新する巨大プロジェクトであり、第一生命は、この基盤となる「WISEネットワーク」を2005年8月スタートさせた。

WISEネットワークは、約20の本社拠点、全国約100カ所の支社、約2100カ所の支部・営業部に散在する約6万台のクライアントPCと自社データセンター間をブロードバンド回線で結ぶ巨大ネットワークだ。第一生命がWISEネットワークの設計、構築、運用のインテグレータとして選定したのがNTTデータであった。「WISEネットワークでは、支社と支部・営業部においては無線LANを全面採用し、暗号技術

による認証システムなどによるモバイル環境を構築しました。このような高い技術的な要求にも十分応えていただきました。また、全国約2100カ所に及ぶ拠点展開も含め、WISEネットワークにおけるNTTデータの構築・運用実績は、高く評価しました。このインテグレーション実績は、現在進めているWISEネットワークを基盤にした全社電話網のフルIP化プロジェクトへと続いています。」（武山 芳夫執行役員）

全社電話網のフルIP化を NTTデータが支援

第一生命は、本年2月、顧客の利便性のさらなる向上と業務プロセスの見直し、効率化などを目的に、IP電話機、SIPサーバをWISEネットワークに直接接続した全社電話網のフルIP化を実現した。すでに、本社機構（IP電話約4,000台）の切替えを完了、2009年1月までに全国の支社（約100拠点）や支所（約2000拠点）など（IP電話約24,000台）についても切替えを実施する。IP電話の導入台数は

合計約28,000台で、全国約2,100拠点を結ぶ国内最大規模のIP電話システムとなる。本システムは第一生命が企画し、構築・運用サービスの提供はNTTデータ、機器の提供は富士通が担当している。なお、IP電話システムは、NTTコミュニケーションズのIP電話サービス「.Phone IP-Centrex」を利用し、PBX・アナログ電話機を富士通製SIPサーバ（CL5000）・IP電話機に置き換えている。

「これまでの本社－支社間の内線電話網を支部にまで拡大し、社内通話のフルIP化で社内通話料の無料化が図れ、大幅なコスト削減が期待できます。」（武山 芳夫執行役員）

最新技術をベースにした 新規提案の積極化に期待

少子高齢化の進展で縮小傾向にある国内保険市場。このような厳しい環境でのサバイバルを勝ち抜くために、ITの有効活用は不可欠である。第一生命では、2010年（平成22年）前半をめどに現在の相互会社から株式会社に転換するとともに、株式上場を目指す方針を打ち出している。経営形態の転換と株式上場を目指すなか、ITパートナーであるNTTデータへの期待も大きい。

「日進月歩でIT分野の技術革新が進むなか、法人保険分野の業務に精通し、第一生命のシステム構成もよくお分かりのNTTデータには、最新技術をベースにした第一生命の業務にフィットする新しい提案を積極的に行ってくれることを期待しています。」と武山執行役員は締めくくった。